



7月号



こんな病気に注意！

気管支炎・咽頭炎

アデノウイルス

結膜炎

など



ほけんだより

令和7年7月 病児・病後児保育室「いよっこすまいる」

暑い日が続くようになり、熱中症が心配な時期となりました。体が暑さに慣れていない梅雨明けや急激に気温が上がった日は、特に注意が必要です。喉がかわいていなくても、水分をこまめにとるようにしましょう。

咽頭結膜熱(プール熱)

プールを介した感染率が高いことから「プール熱」と呼ばれています。

夏かぜの一種(アデノウイルス)で感染力が強く、唾液や鼻水、目やに、便などが感染源で、38～39℃以上の高熱、喉の痛み、体のだるさ、結膜炎といった症状の他に、頭痛、腹痛、下痢などの症状が出ることもあります。

感染した場合は、休むことが義務付けられています。

プール遊びの前後にはしっかりとシャワーを浴び、タオルを共用しないなどの対策が必要です。



プールで感染しやすい病気

熱中症に気をつけましょう



乳幼児は体も小さく、自ら意思表示をして水分をとることが難しいので、脱水症や熱中症にならないよう、周囲の大人が気をつけましょう。熱中症は、炎天下だけでなく、湿度の高い室内でも起こり得ます。通気性のよい服を着せ、こまめに水分を与え、外出時にはきちんと帽子をかぶらせるなどしましょう。体調の変化に気をつけ、暑い夏を健康に乗り切りたいですね。



流行性角結膜炎

アデノウイルスの感染で起こる、結膜炎の中でも一番典型的な病気で、1～5歳によく見られます。潜伏期間が8～14日と長く、目の充血、多くの目やに、涙に加え、耳のあたりのリンパ節の腫れや痛み、発熱などを伴います。感染力が強いので、発症したら医師の指示に従い、許可を得てから登園するようにしましょう。

症状は発病してから1週間くらいがピークですが、完治には2～3週間かかります。感染力も強いので、タオル、ティッシュペーパー、洗面器など、顔に触れる物の共有は控えましょう。

